



### ハイライト

- 地域円卓会議を石垣市、うるま市、国頭村の 3 か所で開催

—地域ごとの移住取組を紹介、地域の移住受入課題に沿って話し合われました

—地域のとりまとめ役、移住者、メディア関係者、行政が円卓を囲み発言しました

—参加住民からは「移住施策は、地域で決めるべき」、「移住を地域の力を増加させるものとして捉えるべき」等の意見も

- うるま市による、住民会議「しまみらい会議」では、住民自らが自分の住む地域の「自慢」「10年後も残したいもの」「復活させたいもの」等、身近な「もの」、「こと」について活発な意見が出ました

### 目次

- 地域円卓会議を県内 3 か所で連日実施 …1
- うるま市による、島しょ地域移住定住促進業務「しまみらい会議」の視察レポート …2

## 地域円卓会議を県内 3 か所で連日実施！

### ～住民と共に地域各所の「移住」を考える～

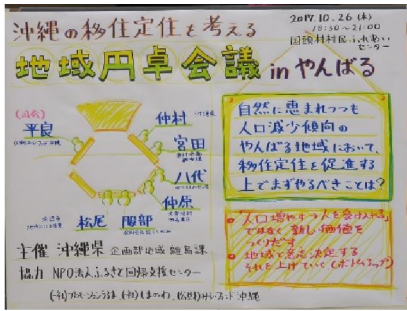
10月24日から26日の3日間、石垣市、うるま市、国頭村の3会場に於いて、移住を考える円卓会議を実施しました。円卓会議とは、会場内に円卓状にテーブルを並べ、司会と着席者との質疑応答を来場者が傍聴する方法を取ります。この度の「地域」円卓会議では、地域・行政・メディア等、多様な見地を有するメンバーを着席者に迎え、提示された各地域の移住に関する課題の解決をめざして議論しました。更に着席者には、千葉県館山市で移住定住促進事業を行うNPO法人おせっかい代表理事の八代健正氏を招いて、地元館山市での10年に渡る取組事例を紹介して頂きました。



初日の石垣市(於:石垣市健康福祉センターホール)では「地元における移住の受け入れ力を上げるには?」をテーマとして、先に石垣市企画部企画政策課長の南風野氏から、石垣市の人口推移や現在の移住取組についての施策説明が成され、続いて伊原間公民館長、久宇良公民館長、地域移住者、FMいしがきサンサンラジオ統括部長による、移住に対する意見が述べられました。石垣市北部地域では人口減少が進み、課題があるという話は聞いていましたが、実際にそこに住む方であり、地域のとりまとめ側でもある公民館長の意見と、また移住者側からの意見を聞いたことは貴重だったと思います。



2日目のうるま市(於:いちゅい具志川 じんぶん館)では、「島しょ部の地域維持のために、空き家活用をどう進めるか?」をテーマに置き、行政からの現状説明、そして地域関係者から見た空き家活用についての問題点や意見が示されました。空き家については、年々増える中で、仏壇事情や住民にとっての「家」の価値など、「空き家であっても大事な存在である」という事情は、沖縄県内共通であると改めて実感しました。



3日目の国頭村(於:国頭村民ふれあいセンターホール)では、東村・大宜味村、名護市街地外エリアも含めた、自然豊かなやんばる地域全体での課題として、「自然に恵まれつつも人口減少傾向のやんばる地域で、連携した移住定住促進を進めるには？」というテーマを設けました。着席者も国頭村、東村、大宜味村、名護市久志支所からの関係者、移住者を着席者として招致し、それぞれの地域における移住課題について意見を聞きました。「移住施策は、行政ではなく、地域で決めるべき」、「移住を単なる人口増加の側面だけで捉えず、地域の活力を増加させるものとして捉えるべき」といった様々な

見方からの意見が聞けました。

更に3回全てにおいて、一通りの課題共有後には、着席者だけでなく、傍聴していた来場者も数名のグループとなって、テーマについて意見を発するワークショップの機会も設けました。傍聴だけでなく、来場者も参加しての課題共有の場となったことは良かったと思います。



### 今後の予定

#### 【地域世話役養成塾】

- 第3回講座開講  
11月20日(月)南部会場(那覇)  
11月21日(火)北部会場(名護)

#### 【移住フェア】

- 12月16日(日)  
ENJOY! ローカルライフ! 九州・山口・沖縄 移住&起業・就農フェア ~

(福岡)

#### 【移住モニターツアー】

- 宮古島市 1月18日~20日
- うるま市 1月~2月頃
- 石垣市 2月頃

## うるま市による、島しょ地域移住定住促進業務の一つ、

## 「しまみらい会議(於:津堅島)」の視察へ行ってきました!



うるま市では、人口減少が深刻化している島しょ地域(平安座島、浜比嘉島、宮城島、伊計島、津堅島)において、移住定住促進業務を昨年度から行っています。昨年度は空き家の実態調査を行い、今年度は地域の中の課題と情報の共有を目的として、地域住民に向けたニュースレターの発行や、空き家を利用したお試し移住や、地域住民会議(しまみらい会議)の実施等を行っています。

「しまみらい会議」は今年度複数回開催を予定しており、段階を経て地域での移住受入について考えを深め、情報共有をしていきますが、その間の2回に於いては、開催場所を各島で別々に設け、住民が自らの地域について発言し、考

える場としています。主役は地域住民なので、会議の最初から、司会者が投げるテーマに沿って参加者が、自由に思いつくままに発言をしていきます。

県担当者が視察させて頂いた津堅島自治会での第1回目会議では、島に10年後も残ってほしいもの、今は失われたが今後復活させたいものは何か、参加者にどんどん挙げていってもらい、それをグラフィッカー(イラストレーター)が、壁に貼った大判の模造紙にイラストやキーワードで可視化させていきました。「学校は10年後もあってほしいね」「伝統芸能も残したいね」「昔あった灯台を復活させたい」「津堅で生まれたといわれる赤犬子(琉球民謡の祖)の話をもっとPRしてはどうか」等、参加者の発言も活発になり、昔の村の様子が目に浮かぶようでした。そして話題は現在の津堅島の農業、また空き家の現状についても広がり、これから期待できそうな農産物の話や、一度島を出たが、いつかは戻って子育てを津堅島でしたいと希望している若いお孫さんがいる、そのために空き家を利用できないか、といった話にもなり、将来に思いを馳せる場にもなったように見受けられました。



参加住民の活き活きとした発言や、昔から続く地域の活動(歴史)への思いの強さを目の前で拝見出来、大変貴重な場を視察させて頂いたと思います。この後の第2回目の自治会での会議では、今回出していた発言を元に、では自分たちが島の理想に向かって、実際に出来ることは何だろうか、具体的に出来ること、動けることについて住民達が主役になって考えて話し合う場になるとのことです。次回の住民会議でも様々な角度から、活発な意見が出て、地域の中で新しい認識や前向きな具体策が出てくるのではないかと、そう期待されるような会議内容でした。